

# チップパーでせん定枝を最大利用

せん定作業に忙しいこの時期、せん定枝の処理に苦勞している人もいると思う。大半は、太い部分は薪として、細い枝は園地で消却しているのではないだろうか。盛岡市黒川の峰崎勇一さんは、チップパーで細かくして処理する方法を取り入れている。

専業になって二年目の峰崎さんは、リンゴ百四十町（ふじ五〇%、さんさ、ジョナ、玉林各一五%）のほか紅玉、千秋、ブルーベリー三千、リンドウ三十、洋ナシ四十町を経営。JAいわて中央都南支部洋ナシ部会の役員、また、北乙部農業生産組合理事などの役も務めている。

現在利用しているチップパーは、三陽機器のトラクタ三点式リンク装着方式チップパーシユレッター、商品名「グリーンフレーカー」（定価百四十八万円）。トラクタの適応馬力は二十五〜六十馬力。最大



峰崎勇一さん

処理径は百五十㎜とかなり大きい。チップパー刃で大きく削り、さらにシユレッター刃で細かくする。実際に見るとおどろくほど細かく処理してくれるのが分かる。処理スピード目安としては、わい性樹を根本から切ったものを、一日で十本くらい。

ただし、振動と騒音は大きいので連続しての作業は避けたい。峰崎さんがチップパーを導入しようとした最初の理由は、ブルーベリーに敷くパークのため。地域ではブルーベリーが積極的に栽培されている。園地でも栽培している。ブルーベリーはパークをマルチ資材として導入し、良い結果を出している。峰崎さんは自分で製材所から運び入れるのが大変だったことから、それなら自分



トラクタのPTOが動力。2枚の刃で細かく削り、煙突から遠くにとばす。防具もわすれずに。



最大処理径150mm。時間はかかるが、太くても大丈夫。

でつくってしまったおうと考えたのがきっかけ。今回紹介する機種の前にも、別社のチップパーを使用していたが、それは樹の詰まりや削るときの跳ね返りがひどかったという。また、生木しか処理できなかった。今の機種は、ある程度の負荷が掛かると自動で止まり、詰まりがなく、また、跳ね返りもない、さらに生木も乾いた木も処理でき、大変気に入っている様子。

削った木の利用方法は、ブルーベリー園に使用するのはもちろん、堆肥に混ぜて畑に還元している。非常に細かく処理してくれるので、腐るのも早い。特に落葉樹は腐りやすいとのこと。

こと。また、腐ってしまうので病気のほうも大丈夫だと思おうと話す。このほか、マルチ資材的に園地周辺に敷き詰め雑草対策として、また、ブルーベリー園へ導入する際、ハーブも一緒に細かくして、防病害虫効果を期待したいなどといういろいろな使い道を考えている。峰崎さんは、「使い道はさまざまあると思



処理後の木くず。もっと細かくすることもできる。

う。一例として、雑草対策に使用できただけでも作業削減になる。これを考えただけでも決して高い買い物ではないと思っっている。この機械に大きな期待を寄せている。